

Journal of Nara Medical Association

**Vol.65
No.4・5・6
December
2014**



平成 26 年

奈良医学雑誌

JOURNAL OF NARA MEDICAL ASSOCIATION

第 65 卷 第 1—6 号

Vol.65 No.1—6

奈良医学会
奈良県立医科大学

〔634-8521〕 橿原市 四条町

THE NARA MEDICAL ASSOCIATION

NARA MEDICAL UNIVERSITY

KASHIHARA, NARA 634-8521, JAPAN

奈 医 誌

J. Nara Med. Ass.

目 次

「原著」

A STUDY OF FACTORS ASSOCIATED WITH DIETARY SUPPLEMENT

CONSUMPTION IN MENOPAUSAL WOMEN Nobuko NAKANISHI... (39)

IMPACT OF A TRANSPARENT HOOD ON THE PERFORMANCE AND THERAPEUTIC RESULT OF

ENDOSCOPIC INJECTION SCLEROTHERAPY Masakazu Uejima *et al.*... (51)

「症例報告」

鼠径ヘルニア嵌頓整復後の小腸狭窄に対し腹腔鏡補助下に手術を行った1例 蜂 須 賀 崇... (63)
他 2 名

腹腔鏡下に整復したS状結腸間膜窩ヘルニアによる絞扼性イレウスの一例 三 宅 佳乃子... (69)
他 8 名

CONTENTS

「Original Articles」

A STUDY OF FACTORS ASSOCIATED WITH DIETARY SUPPLEMENT

CONSUMPTION IN MENOPAUSAL WOMEN Nobuko NAKANISHI... (39)

IMPACT OF A TRANSPARENT HOOD ON THE PERFORMANCE AND THERAPEUTIC RESULT OF ENDOSCOPIC INJECTION SCLEROTHERAPY

Masakazu UEJIMA *et al.*... (51)

「Case Reports」

A CASE OF A SMALL INTESTINAL OBSTRUCTION AFTER REDUCTION OF AN INCARCERATED INGUINAL HERNIA RESECTED BY LAPAROSCOPY-ASSISTED SURGERY

Takashi HACHISUKA *et al.*... (63)

A CASE OF STRANGULATED ILEUS DUE TO INTERSIGMOID HERNIA

TREATED BY LAPAROSCOPIC SURGERY Kanoko MIYAKE *et al.*... (69)

奈良医学雑誌第 65 巻総目次

(通巻第 1 ～ 6 号)

第 65 巻 1・2・3 号

「総説」

- 癌細胞は HMGB1 を分泌し筋組織をエネルギー源として利用している 國 安 弘 基... (1)
他 2 名

「原著」

- 過去 5 年間の奈良県内における身元不明死体解剖事例の統計的考察 粕 田 承 吾... (9)
他 8 名

- 医師年齢を考慮した地域診療所医師数の評価 大 西 丈 二... (17)

混合病棟における転倒・転落に関連したインシデントの要因分析と

- 新しいアセスメントスコアの提案 下 倉 良 太... (25)

「講演報告」

- 第 133 回奈良医学会報告 國 安 弘 基... (35)

第 65 巻 4・5・6 号

「原著」

A STUDY OF FACTORS ASSOCIATED WITH DIETARY SUPPLEMENT

- CONSUMPTION IN MENOPAUSAL WOMEN Nobuko NAKANISHI... (39)

IMPACT OF A TRANSPARENT HOOD ON THE PERFORMANCE AND THERAPEUTIC RESULT OF

- ENDOSCOPIC INJECTION SCLEROTHERAPY Masakazu Uejima *et al.*... (51)

「症例報告」

- 鼠径ヘルニア嵌頓整復後の小腸狭窄に対し腹腔鏡補助下に手術を行った 1 例 蜂 須 賀 崇... (63)
他 2 名

- 腹腔鏡下に整復した S 状結腸間膜窩ヘルニアによる絞扼性イレウスの一例 三 宅 佳 乃 子... (69)
他 8 名

Volume 65 No.1 • 2 • 3

「Review」

Cancer cells utilize the skeletal muscle as an energy resource using cancer-secreted

HMGB1 Hiroki KUNIYASU *et al.*... (1)

「Original Articles」

STATISTICAL CONSIDERATION OF AUTOPSY CASES OF UNIDENTIFIED

BODIES IN NARA PREFECTURE DURING THE LAST HALF DECADE... Shogo KASUDA *et al.*... (9)

THE NUMBER OF CLINICIANS TAKING AGE OF DOCTORS INTO ACCOUNTJoji ONISHI... (17)

Analysis of factor for slip-and-fall incidents and proposal of new reasonable

assessment scores in mixed medical wards Ryota SHIMOKURA... (25)

「Meeting Report」

The 133th Nara Medical Meeting (35)

Volume 65 No.4 • 5 • 6

「Original Articles」

A STUDY OF FACTORS ASSOCIATED WITH DIETARY SUPPLEMENT

CONSUMPTION IN MENOPAUSAL WOMEN Nobuko NAKANISHI... (39)

IMPACT OF A TRANSPARENT HOOD ON THE PERFORMANCE AND THERAPEUTIC RESULT OF

ENDOSCOPIC INJECTION SCLEROTHERAPYMasakazu UEJIMA *et al.*... (51)

「Case Reports」

A CASE OF A SMALL INTESTINAL OBSTRUCTION AFTER REDUCTION OF AN INCARCERATED INGUINAL
HERNIA RESECTED BY LAPAROSCOPY-ASSISTED SURGERY Takashi HACHISUKA *et al.*... (63)

A CASE OF STRANGULATED ILEUS DUE TO INTERSIGMOID HERNIA

TREATED BY LAPAROSCOPIC SURGERY Kanoko MIYAKE *et al.*... (69)

SUBJECT INDEX

A

autophagy (1)

C

cause of death (9)

D

dietary supplement (39)

E

Endoscopic injection sclerotherapy (EIS) (51)

energy metabolism (1)

H

health care system (17)

health promotion (39)

HMGB1 (1)

I

ileus (69)

incarcerated inguinal hernia (63)

intersigmoid hernia (69)

Intravariceal injection (51)

L

laparoscopic surgery (69)

laparoscopy (63)

M

Medical Information Net	(17)
medical practitioner	(17)
medico-legal autopsy	(9)
menopausal symptoms	(39)
menopausal women	(39)
mixed medical ward	(25)
multiple logistic regression	(25)
municipality	(17)

N

National Confirmation System	(17)
------------------------------------	------

O

Oblique transparent hood	(51)
odds ratio	(25)

P

plasma free amino acid profile	(1)
--------------------------------------	-----

S

scoring system	(25)
slip-and-fall assessment score	(25)
stenosis	(63)

U

unattended death	(9)
unidentified bodies	(9)

V

Variceal recurrence..... (51)

W

Warburg effect (1)

AUTHOR INDEX

A

Akihisa, Fukumoto	(69)
Akiko, Ishitani	(9)
Akira, Mitoro	(51)
Atsushi, Imagawa	(69)

H

Hideto, Kawaratani	(51)
Hiroaki, Takaya	(51)
Hirokazu, Turui	(63)
Hiroki, Kuniyasu	(1)
Hiroshi, Fukui	(51)
Hitoshi, Yoshiji	(51)

J

Joji, Onishi	(17)
Junichi, Yamao	(51)
Junya, Yoneda	(1)

K

Kanoko, Miyake	(69)
Katsuhiko, Hatake	(9)
Katsuya, Yuui	(9)

M

Mari, Nakanishi	(9)
Masahiko, Matsumura	(51)
Masakazu, Uejima	(51)
Masayoshi, Sawai	(51)
Mitsuteru, Kitade	(51)
Motoyuki, Yoshida	(51)

N

Nobuko, Nakanishi	(39)
Norie Umemoto	(51)

R

Risa, Kudo	(9)
Ryota, Shimokura	(25)

S

Seiichi, Sugihara	(69)
Shigehiro, Tamaki	(9)
Shogo, Kasuda	(9)

T

Tadashi, Namisaki	(51)
Takashi, Hachisuka	(63)
Takasumi, Hosoi	(69)
Takeshi, Nakao	(69)
Tomoko, Hirao	(69)
Toshihiro, Morita	(63)

W

Wataru, Kawashima	(9)
-------------------	-----

Y

Yasuko, Tsuji	(69)
Yi, Luo	(1)
Yoshifumi, Morimura	(9)
Yosuke, Aihara	(51)
Yukio, Aomatsu	(69)

奈良医学雑誌投稿規定

奈良医学雑誌は総説・原著・症例報告・見聞記などを掲載するものであり、各論文の構成内容は下記のとおりとする。また投稿に際しては、各論文表紙に総説・原著・症例報告・その他の別を明記すること。

1. 総説の構成は以下のとおりとする。

- 1) 表紙：論文タイトル，所属，著者名，ランニングタイトル(英文，スペースを含40字以内：和文，40字以内)
- 2) 抄録：和文400字以内とする。Key word(5語以内)
- 3) 本文・図表：構成は著者に一任する。

2. 原著・症例報告の構成は以下のとおりとする。

- 1) 表紙：和文と英文の論文タイトル，所属，著者名，ランニングタイトル(英文，スペースを含40字以内：和文：40字以内)
- 2) 抄録：英文300語以内とする。Key word(5語以内)

- 3) 本文：和文あるいは英文で緒言・材料と方法・結果・考察・結論・謝辞など・文献の構成とする。

- 4) 図表：英文で説明文をつける。

3. 見聞記・その他の構成は以下のとおりとする。

- 1) 表紙：タイトル，所属，著者名
- 2) 本文：構成は著者に一任する。400字詰め原稿用紙数枚とし，図表は5点以内が望ましい。

各項目の記載事項の詳細については以下のとおりとする。

I. 表 紙

1. 和文では表題，所属，著者名の順に記す。
2. 英文の表題，著者名(名を前に姓を後に)，所属は原著と症例報告のみとし，表題と著者名はすべて大文字とし，省略しない。2名以上連記の際は最後の著者名の前に，and をつける。
3. 英文・和文ともに表題と短縮したランニング・タイトルをつける。

(例) 治療的エキシマレーザー角膜表層切除術後の遠視化の原因について

奈良県立医科大学眼科学教室

桜井 一郎, 竹谷 太, 魚里 博, 原 嘉昭, 西 信元 嗣

大淀町立大淀病院眼科

名 和 良 晃

THE CAUSES OF THE HYPEROPIC SHIFT AFTER EXCIMER LASER PHOTOTHERAPEUTIC KERATECTOMY

ICHIRO SAKURAI, FUTOSHI TAKETANI, HIROSHI UOZATO,

YOSHIAKI HARA and MOTOTSUGU SAISHIN

Department of Ophthalmology, Nara Medical University

YOSHIAKI NAWA

Department of Ophthalmology, Oyodo Municipal Hospital

II. 英文抄録

1. 英文抄録は原著と症例報告のみとする。
2. 英文は、300語以内でダブル・スペースで別紙にタイプする。
3. 英文の表現は English editor の校閲をうけ、著者の了解をえて編集部で変えることがある。
4. 英文抄録の最後に Key word (5語以内)をつける。Key word の選び方については、本指針末尾の補足 I を参照されたい。

III. 本文

1. 論文の体裁はなるべく次の用語および順序に従う。緒言；材料と方法；結果；考察；結論；謝辞など；文献。
2. 本文中の句読点は(.)と(,)に統一する。
(例)……であれば、……である。
3. 書き出し、改行には1字あける。(.)(,)(「」)(「」)(”)(”)などは1字分をとる。
4. 本文は簡明な現代文とし、かなづかいは現代かなづかいによる(いくつかの実例を指針末尾の補足 II にあげておいたので参照されたい)。
5. 本文中の外人名、外国地名は原語のままタイプする。
(例) Eranko, Hyden, Chicago, Mill Hill
6. 本文中の化学物質、略号などは専門用語の慣用表記に従う。
7. 動植物学名(ラテン語)はイタリックで印刷するため、その下に下線をひく。日本語名はカタカナで表記する。
(例) *Apodemus geisha geisha* (Thomas), *Oryza japonica* var., *Drosophila sp.* カニクイザル, ダイコクネズミ
8. 特別な外国語で日本語訳の一定しないものは、原語のまま表記する。
(例) Tigrolysis, uranotropic, allosteric
9. 単位は CGS 単位によるのが望ましい。ただし、特殊なものは一律に定めがたいので、専門的な慣用に従う。
(例) km, cm/sec, μm , nm, ml, μl , mm³, kg, g, mg, μg , ng, 38°C, rpm, min, pH 5.0-6.1, 1 N NaOH, 10⁻³M, % (V/V)
10. 特に長い用語が反復する場合は、最初に略号を明記した上で以下略号を用いてもよい。

IV. 図および表

1. 各図・表はそれぞれ別紙に書き、なるべく A 4 判または B 5 判の大きさに統一する。
2. 各図・表の裏面に著者名・所属・上下を鉛筆で薄く書き入れる。
3. 図・表は原図を提出する。
4. 凸版を要する図・表は、白紙または淡青方眼紙に黒インキを用いて書き、汚損または折り曲がらないように保護すること。
5. 図・表の説明は原則として英文とし、白紙に明瞭にタイプして、各図・表につける。
表は Table 1., 2. ……., 図は Fig. 1., 2. ……とする。
6. 図・表の説明文の位置は原則として下記のように統一する。

Table 1. ……………
……………

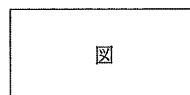
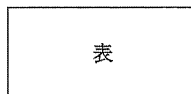


Fig. 2. ……………
……………

7. 図の場合、必要であれば、原寸または縮尺(縮尺率は長さで表す)の別を指定すること。
8. 表中の記号で活字にない特殊な記号を必要とするときは、凸版によるため図と同様に浄書されたい。
9. 図・表・写真の概略の挿入位置を原稿の左側余白に指定すること。
10. 写真は台紙に貼付け、最初にアート紙の使用を必要とするかどうかを指定すること。

V. 謝辞・その他

謝辞または研究費の援助、学会公表などに関する付記を必要とする場合は、原則として結語の直後に行を改めて()内になるべく簡潔にまとめる。

VI. 文献

1. 本文中の文献の引用は、人名または必要個所の右肩にアラビア数字で片カッコをつける。人名は著者の姓のみをあげ、2名のときは両者の姓を、3名以上のときは最初の著者の姓のみをあげ他の著者名は“……ら”または“……et al.”と省略する。
(例) 1名の場合：山口³⁾は……, Robert⁷⁾は……
2名の場合：勝川・石川¹⁾は……, Smith & Dupret⁴⁾は……
3名以上の場合は：玉井⁶⁾らは……, Sonnen-blik et al.⁸⁾は……, の証明法⁵⁾は、

……という説明は

2. 文献は別紙に一括し、欧文はダブル・スペースでタイプすること。

3. 雑誌からの論文引用はつぎの記載法に従う。

(1) 文献の記載順序

引用番号) 著者名: 題名. 誌名巻: 頁(開始- 終り), 年号.

(2) 著者名: 日本人名は姓・名ともに記し, 省略しない. 外人名は姓のあとに名の頭文字のみを略記する.

(例) 岡田以蔵:

Roughton, F. J. W.:

連名の文献は下記の例に従い, 全著者名を列記する.

(例) 井口 潔・尾前照雄:

Guyton, A. C., Granger, H. J. and Coleman, T. C.:

(3) 雑誌名は慣用の省略法に従い, 外国文献は Index Medicus 所載のものに準ずる. 省略法の不明なものは図書館司書に一度相談されるのがよい.

同一の文献を引き続いて引用する場合も, “同”, “ibid.” は用いない.

(4) 雑誌の巻は太字(ゴシック)で印刷するが, 原稿にはアンダーラインをつける.

(5) 和文文献の年号は西暦に統一する.

(例) 3) 望月光治: 歯原性角化嚢胞の研究—主にその増殖能に関して. 奈医誌. 39: 134-154, 1988.

4) Knight, J. S. and North, J. F.: The classification of malar fractures an analysis of displacement as a guide to treatment. Brit. J. Plast Surg, 13: 325-339, 1960.

4. 引用単行本の記載は次のように統一する.

引用番号) 著者名又は編者名: 書名. 版, 発行所, 発行地, 引用頁, 年号.

(例) 16) 小松勇作: 数理生物学概論. 中山書店, 東京, p 31, 1950.

17) Weiss, P.: Genetic neurology, 1st ed., Chicago Univ. Press, Chicago, p 53, 1950.

18) Gottschalk, A.: Current Status of chemotherapy in metastatic renal carcinoma in The Enzymes (Boyer, P. D.,

Lardy, H. A. and Myrback, K., eds.), 2nd ed., Vol. 2, Academic Press, New York, pp. 67-72, 1960.

VII. 投 稿

1. 投稿は奈良医学会会員に限る(会員は会費年額 4,000 円を編集部へ納入する).
2. 投稿に際しては, 投稿著者(論文に対する責任著者, 英文投稿では corresponding to)を明確にし, 著者全員の投稿同意署名を指定用紙に署名する. 著者の合意の得られていない論文は受理しない.
3. 投稿には 400 字詰(20 × 20)原稿用紙(A4 判または B5 判)を用いること. ワープロ (Macintosh, Windows, etc.) 使用の場合は, 原稿用紙書式 20 × 20 字で作成すること.
4. 投稿論文には, 当該論文のファイルのみを含む 3.5 インチサイズのプロッピーディスク(FD)を添えるものとし, 論文表題・筆頭著者名・使用ソフト名 (Version も)・使用機種 (Macintosh, Windows, etc.) を記載したラベルを貼付すること.
5. ワープロソフトの種類については Windows 系・Macintosh 系のいずれを使用しても, 必ずデータ保存時に TEXT (テキスト) 形式にて保存すること.
6. ワープロ専用機のデータ入稿は, 必ず DOS 形式にフォーマットされたフロッピーに TEXT (テキスト) 形式にてデータをコピーすること.
7. 本文の数字や英文は半角数字で入力すること.
8. 英文の単語間は半角スペースであけること.
9. 本文中に図・表のデータは組み込まないこと.
10. 図, 写真は紙原稿から写真製版する. 作図ソフトにより作図した図データは不要なので FD には入れないこと.
11. 査読において訂正があった場合には, FD にもその訂正を施すこと.

VIII. 校正・その他

1. 校正は原則として初校, 再校を著者において行う. 初校後原文はそのまま返却するが, 写真版は印刷完了まで預る.
2. 校正の段階で大幅な内容の変更を行ってはならない. そのような場合には, 印刷を次号まわしとする.
3. 校正には赤字を用い, 校正の記号は慣例に従うこと.
4. 校正は 48 時間以内に編集部に戻すこと.
5. 初校時に別冊の希望数を表紙に明記する. 別冊は 30 部までは贈呈し, それ以上は著者負担とする.

6. 掲載の順序は原稿の到着順とするが、編集の都合上同一号における順序を変更することがある。

7. 会員は本文(印刷頁)3頁まで無料とする。

8. 発行は年次1巻6号とする。

9. 投稿は編集主幹または直接下記へ送付されたい。

〒634-8521 奈良県橿原市四条町840 奈良県立医科大学寄生虫学教室内

奈良医学雑誌編集部(Tel.0744-22-3051 内線2810)

補足 I. 適切な Key word の選び方

文献を網羅的に探したり、特定の情報、データを検索するには、まず何らかの手掛かりとなるものが必要である。

主題を手掛りとする場合、奈良医学雑誌ではSUBJECTS INDEX が利用される。しかも、この索引は研究の内容を最もよく知っている著者自身がKey wordsとして指示した用語をもとに作成される仕組みになっている。すなわち、著者の採用した用語は、それを利用する人が必要な文献を能率的に検索する手引となる。したがって、どのような用語を採録するかは重要なことであり、著者は充分考慮しなければならない。基本的には、ある主題・概念をできる限り明確に表す最も適切な用語を使用することであるが、次にいくつかの指針となるものをあげる。

(1) 文献の論題(論文の内容に正確にマッチした)に出ている用語の中から、重要な語あるいは語句を選ぶ(4~5程度)。さらに、抄録、論文本文中からも探索の手掛りとなる適切な用語を追加する。

(2) 用語は標準化されている医学用語を採用し、原則として英語の慣用語を使い(ない場合はラテン語形)、アメリカ式綴り方を探る。

(例) ANAESTHESIA → ANESTHESIA

(3) 同義語、関連語は()に示す。

(例) NEOPLASM(CANCER, TUMOR)

HORMONES(ENDOCRINE GLANDS)

(4) 特殊な用語から、より一般的用語、或は一般的用語から、特殊な用語への指示が考えられるものは()に入れる。

(例) BRAIN(CEREBRUM)

PAPAVAR(OPIUM)

(5) 器官名や単一の疾患名は原則として単数形をとり、総括的なものは複数形とする。

(例) ARM HEART DISEASES

(6) 複合語は、判断により転置形にする。

(例) GASTROINTESTINAL HEMORRHAGE →
HEMORRHAGE, GASTROINTESTINAL

(7) 動物実験の場合は実験動物名(小文字)を追加する。

(例) ARTERIOSCLEROSIS, rabbits

(8) 年齢別による器官、疾患或は生理的機序に関するものは: ASTHMA, child

(9) 薬物の投与の形式、診断や治療の目的で使われるもの、副作用を生じたものなど次のように副標題を補足する。

(例) PENICILLIN, administration & dosage ;
ASPIRIN, adverse effects ; STOMACH
ULCER, chemically induced ; LIVER, anat-
omy ; AMINO ACIDS, biosynthesis ; KID-
NEY, pathology ; PANCREAS, radiation
effects

補足 II. かなづかいの例

次のカッコ内は用いない。

あらゆる	(凡ゆる)	あるいは	(或は)
いう	(云う, 言う)	いずれ	(何れ)
いたずらに	(徒に)	いる	(居る)
いわゆる	(所謂)	おいて	(於て)
おこす	(起こす)	おこなう	(行う)
おそらく	(恐らく)	および	(及び)
かわからず	(拘, 関, 係らず)	かつ	(且つ)
かなり	(可成り)	かねて	(予て)
ここ	(此处, 茲)	この	(此の)
これ	(之, 是)	ことに	(殊に)
さらに	(更に)	しかし	(併し, 然し)
したがって	(従って)	しばしば	(屢々)
すくない	(少ない)	すなわち	(即ち)
すべて	(総て, 全て)	その, それ	(其の, 夫れ)
ただ	(只, 唯)	ただし	(但し)
たとえば	(例えば)	ため	(為)
ついて	(就いて)	とおり	(通り)
ともなう	(伴う)	ともに	(共に)
ないし	(乃至)	なお	(尚, 猶)
など	(等)	ながら	(乍ら)
なぜ	(何故)	ならびに	(並びに)
ほぼ	(略々)	ほとんど	(殆ど)
また	(又)	まで	(迄)
ますます	(益々)	むしろ	(寧ろ)
もし	(若し)	もって	(以て)
やや	(稍々)	ゆえに	(故に)
ように	(様に)	よる	(因る, 依る)
わかる	(判る, 分かる)	わたって	(亘って)

投稿規定概略

1. 奈良医学雑誌は、奈良医学会の公的雑誌として奈良医学会員による総説・原著・症例報告及び見聞記などを掲載する。
投稿は、奈良医学会員（年会費 4,000 円）に限るものとし、投稿著者（論文に対する責任著者）を明確にし、著者全員の投稿同意署名を指定の用紙に記入して、奈良医学雑誌編集部へ原本 1 部にデータファイル（CD-R、USB メモリ等）を添えて持参又は郵送する。メディアには、論文表題・筆頭著者名を記載したラベルを貼付すること。
2. 論文の採否は、編集委員又は査読者の結果をもとに編集主幹が決定する。
3. 原著と症例報告は英文 300 語以内の抄録をつけ、図および表の説明は英文とする。
4. 原著・症例報告・謝辞・文献・その他は投稿規定の細目に従う。
5. 編集主幹は、編集委員の同意のもとに投稿を依頼することができる。
6. 投稿論文作成の詳細は、奈良医学雑誌投稿規定に従う（各年の最終号に掲載する）。
7. 査読期間は論文受領後、2 週間とする。
8. 原著・症例報告の掲載は、印刷頁 3 頁まで無料とし、超過分は著者負担とする。別冊は 30 部まで無料とする。
9. 依頼原稿については、8. の規定を除外する。

複写をご希望の方へ

奈良医学会は、本誌掲載著作物の複写に関する権利を一般社団法人学術著作権協会に委託しております。本誌に掲載された著作物の複写をご希望の方は、(社)学術著作権協会より許諾を受けてください。但し、企業等法人による社内利用目的複写については、当該企業等法人が社団法人日本複写権センター（(社)学術著作権協会が社内利用目的複写に関する権利を再委託している団体）と包括複写許諾契約を締結している場合にあっては、その必要はございません（社外頒布目的の複写については、許諾が必要です）。

権利委託先 一般社団法人学術著作権協会

〒 107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル 3F

FAX : (03) 3475-5619 E-mail : info@jaacc.jp

複写以外の許諾（著作物の引用、転載、翻訳等）に関しては、(社)学術著作権協会に委託しておりません。直接、奈良医学会へお問い合わせください。

奈良医学会・奈良医学雑誌編集部

〒 634-8521 奈良県橿原市四条町 840（厳橿会館 1 階）

TEL : 0744-22-3051 FAX : 0744-23-7508

E-mail : journal@naramed-u.ac.jp

編集主幹：國 安 弘 基 (分子病理学)

編集委員：上 野 聡 (神経内科学), 高 澤 伸 (生 化 学),
谷 口 繁 樹 (胸部心臓血管外科学)

奈 良 医 学 雑 誌 第65巻 第4・5・6号

(非売品)

平成 26 年 12 月 25 日 印刷

平成 26 年 12 月 31 日 発行

編集兼発行者：國 安 弘 基

印 刷 所：実業印刷株式会社

〔630-8144〕奈良市東九条町 6-4

TEL.0742-62-3377

FAX.0742-50-2555

URL : <http://www.jitsugyo.jp>

発 行 所：奈良医学会
奈良県立医科大学

〔634-8521〕橿原市四条町

JOURNAL OF
NARA MEDICAL ASSOCIATION
Vol. 65 No.4・5・6

Executive Editor :

Hiroki KUNIYASU,M.D.

Editorial Board :

Satoshi UENO,M.D.

Shigeki TANIGUCHI,M.D.

Shin TAKASAWA,M.D.

Managing Editor :

Tomomi MASUTANI

Published by Nara Medical Association
and University

Kashihara,Nara 634-8521,Japan